

科目名	都市の経済とビジネス	単位数	2	授業形態	講義	担当 教員	新藤 晴臣（創）他
英語表記	Urban Economy and Business						

● 科目の主題

都市の発展において、ビジネスは重要な役割を果たしている。それでは経営者は、会社をどのように経営しているのだろうか？例えばソフトバンクやアップルといった企業は、どのようにビジネスを行い、発展しているのだろうか？

本講義では「経営学」をベースに、都市のビジネスについて考えることを目的とする。

そのために本講義は、2つのパートより構成されている。第1部（第2回～第6回）では、経営者の資質や役割、社員の管理方法など、会社組織を動かす方法（経営組織論）について学習する。第2部（第7回～第14回）では、都市成長の原動力となる事業創造（アントレプレナーシップ）や、多様な創業のあり方について学習する。最後に第15回では「確認テスト」を行い、知識の定着をはかる。

● 授業の到達目標

本講義の到達目標は、以下の4点となる。

1. 経営学の成り立ちと体系を理解する
2. 経営組織論の基礎を理解する
3. アントレプレナーシップ論の基礎を理解する

● 授業内容・授業計画

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 経営者の役割とアントレプレナー
- 第3回 ケース1：学生ベンチャーの創業
- 第4回 社員をどう動かすか（マイクロ組織論）
- 第5回 ケース2：チームワーク実験
- 第6回 組織のしくみ（マクロ組織論）
- 第7回 アントレプレナーシップとは何か
- 第8回 ケース3：ソフトウェア企業の事業転換
- 第9回 多角化戦略とコーポレートベンチャーリング
- 第10回 ソフトバンクの多角化戦略

第11回 起業環境の国際比較

第12回 大学発ベンチャーと産学連携

第13回 中国科学院によるベンチャー創出

第14回 外部講師による講演

第15回 確認テスト

● 事前・事後学習の内容

事前学習としては、授業内で提示される宿題を行うほか、テキストの該当ページに、目を通した上、疑問点などを整理しておくことが望ましい。また事後学習としては、各種ビジネス誌（日経ビジネス、ダイヤモンド、東洋経済）に目を通す、経済番組を見ることを通じて、学習内容を実際の企業に適用することのシミュレーションを行うことが望ましい。

● 評価方法

平常点（授業内での発言、課題・宿題）＝70%
確認テスト＝30%

● 受講生へのコメント

文系・理系を問わず、経営学の知識は必須要件になりつつあるので、本講義を通じて、経営に興味を持つことができれば幸いです。また本講義では、宿題のほか授業内での発言が成績に加点されますので、失敗を恐れず、積極的に発言することを期待します。

授業に関する質問は、授業内または授業後に適宜、受けつけます。一定の時間を要する相談がある場合には、アポイントを事前に入れて下さい。なおこれらの質問・相談とは別に、成績に関する質問については、大学の規程に従い対応します。

● 教材

以下のテキストを使用するので、各自で用意すること。

新藤晴臣(2015)『アントレプレナーの戦略論』中央経済社